

事業評価シート

番号 1340090 1

【1.基本情報】

事業名	浄化槽汚泥処理事業				
担当部署	環境事業部	担当課名	寺田プラント		
総合計画政策	さわやか環境をつくろう計画		政策コード	2 - 4 - 0 - 0	
実施方法	直営	補助の種類※	実施主体	岐阜市	
実施期間	平成17年度～	年度	根拠法令 関連計画※	廃棄物の処理及び清掃に関する法律	

【2.事業概要】

事業の目的	各家庭及び事業所が、浄化槽汚泥設置者が法令に基づき実施した清掃において出た浄化槽汚泥の全量を処理する。	
事業の内容	搬入された浄化槽汚泥をスクリーンプレス脱水機において脱水をし、脱水汚泥はトラックにより東部クリーンセンターへ搬出、分離液は希釈後下水道管へ放流する。	
事業の対象	何を	浄化槽汚泥
	誰に (対象者・対象者数)	家庭及び事業所(平成28年度浄化槽設置基数21,513基、合併浄化槽4,724基)
	どのくらい (具体的 数値で)	平成30年度浄化槽汚泥搬入量 44,425kL
平成29年度 (実施内容)	浄化槽汚泥搬入量 42,551.4kL 下水道投入量(希釈水含む) 75,721.8m ³ 脱水汚泥搬出量 977,840kg	

【3.支出(行政コスト)】

(1)人にかかるコスト

	平成27年度決算額		平成28年度決算額		平成29年度決算額	
	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)
正規職員	53,690	1,820	47,424	1,560	41,210	1,300
嘱託職員	3,636	360	5,508	540	7,416	720
アルバイト	0		0		0	
計(A)	57,326	2,180	52,932	2,100	48,626	2,020

(2)物にかかるコスト

直接経費【直接事業費】(B)		平成27年度決算額(千円)	平成28年度決算額(千円)	平成29年度決算額(千円)
		365,356	111,276	109,511
直接事業費の主な内訳		平成27年度決算額(千円)	平成28年度決算額(千円)	平成29年度決算額(千円)
項目	清掃関係業務	4,471	4,471	4,471
	保守点検業務	1,280	1,620	6,048
	積込運搬業務	21,438	18,392	18,392
減価償却費【施設管理】※(C)		平成27年度額(千円)	平成28年度額(千円)	平成29年度額(千円)
計(D)=B+C		365,356	111,276	109,511

(3)総コスト

総事業費(E) =A+D	平成27年度決算額(千円)	平成28年度決算額(千円)	平成29年度決算額(千円)
	422,682	164,208	158,137

【4.収入】

収入内訳	平成27年度決算額(千円)	平成28年度決算額(千円)	平成29年度決算額(千円)
国庫支出金	28,280		
県支出金			
市債	201,500		
使用料・手数料	19		
その他	334		
計(F)	230,133	0	0

【5.収支】

市負担額一般財源(E-F)	平成27年度決算額(千円)	平成28年度決算額(千円)	平成29年度決算額(千円)
	192,549	164,208	158,137

【6.コストバランス】

	平成27年度	平成28年度	平成29年度
事業受益者	家庭及び事業者の浄化槽設置者	家庭及び事業者の浄化槽設置者	家庭及び事業者の浄化槽設置者
受益者数	21,766	21,513	21,279
受益者負担額(千円)	0	0	0
受益者負担率(%)	0.0%	0.0%	0.0%
受益者1人当たりのコスト (円、一般財源ベース)	8,846	7,633	7,432

【7.指標】

アウトプット評価 (資源投入(インプット)により産出した活動(サービス))			
活動指標名	浄化槽尾汚泥搬入量	単位	kL
	平成27年度	平成28年度	平成29年度
目標値	44,227	43,829	44,590
実績値	44,123	42,476	42,551

アウトカム評価 (アウトプットによりもたらされた成果)			
成果指標名	下水排水基準不適合件数	単位	件
	平成27年度	平成28年度	平成29年度
目標値	0	0	0
実績値	0	0	0

【8.評価】

評価項目	評価	理由(可能な限り定量的又は定性的な指標を用いて説明)
必要性 (①目的が市民・社会のニーズに合っているか) (②事業を市が担う必要があるか(民間・国・県)) ※【1】【2】から	高	浄化槽汚泥(一般廃棄物)の処理は必要である。 廃棄物処理法による自治事務である。
効率性 (①費用対効果) (②他に効率的な方法がないか (広域・民間活用・市民協働)) ※【1】【3】【4】【5】【6】から	中	浄化槽汚泥処理をしながら効率的な運営を行っている。 施設の規模から特に必要ない。(現状維持)
有効性 (期待した効果が得られたか 又は計画した将来に効果が得られる見込か) ※【2】【7】から	高	年間搬入量をすべて処理できている。
公平性 (受益者及び受益者負担は適正か) ※【2】【6】【7】から	中	随時改修を行い、市民生活に影響を与えないで安定的な維持管理ができています。ほぼ安定したコストで運用できており、公平性が保たれている。
【総合評価】 (現状維持・改善(統合・縮小含む)・廃止)	現状維持	公共性の高い事業であるため現状維持が望ましい。